

9月



美園小だより

令和 7年8月27日
さいたま市立美園小学校
第182号 児童数 1039名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

自由研究

校長 河野 秀樹

1学期に市立中学生の発表を聞く機会がありました。彼らは学校が休みになっても、先生がいなくても、自立した学習者であることが大切だと語っていました。話を聞きながら思い出したのは、教員になった頃に先輩教員から、子どもたちには「一匹の魚を与えるより、魚の取り方を教えること」や「自由研究できる力を育むこと」が大切であると教えられたことです。2学期当初は、各クラスで自由研究の取組発表や作品の掲示がされます。その前に、私のこの夏の自由研究について報告させていただきます。

私は、25年振りにスペインのバルセロナを訪れました。当時は、まだサグラダ・ファミリア大聖堂（以下サグラダ・ファミリアと記す）は世界文化遺産になっていませんでしたが、入場するのに苦労するほど多くの観光客がいました。そして、今回は更に混雑しているように感じました。そこで、観光都市バルセロナについて調べてみることにしました。

1 サグラダ・ファミリアでインタビュー

Q1	Where are you from? (あなたはどこの国から来たのですか?)	
A1	スペイン (バルセロナ) 2人、日本7人、フランス6人、カナダ5人、イタリア5人、中国5人、ブラジル4人、アメリカ2人、南アフリカ2人	
Q2	How many times have you been here? (サグラダ・ファミリアに何回来たことがありますか?)	
A2	For the first time (1回目) → 31人	More than two times (2回以上) → 7人



2 バルセロナ出身ガイドのアンさんの話

私は、スペイン語、カタルーニャ語、英語、フランス語を話すことができます。以前は、ポルトガル語や日本語なども勉強していました。ガイドの仕事をして17年で、多い時には、サグラダ・ファミリアに年に40～50回来ていました。最近では10～20回くらいです。中国人観光客が増えてきています。



3 まちの見学

まちには、いろいろな場所にWi-Fiスポットがありました。スマホを片手に歩いている家族連れや団体の観光客をたくさん見かけました。また、サグラダ・ファミリア以外にも、私が訪れたカサ・ミラ、カサ・バトリョ、カタルーニャ音楽堂などバルセロナ観光で人気の場所は、事前予約システムが導入されていました。観光地や街中には、ゴミ箱がいくつも設置されていましたが、ゴミが散乱しているところもありました。

様々な国から多くの人たちが集まるバルセロナでは、観光客がまちの魅力を十分に楽しむことができるように、スマホを活用したりルールを策定したりして、地域の住民も安心して生活できる工夫をしていました。しかし、ニュースではスペインの地元住民が観光客に対して抗議している映像が流れていました。現在、日本にも過去最高の外国人観光客が訪れていて、同様のオーバーツーリズム問題を抱えています。私たち日本人も今後の観光とまちづくりについて、適切な対応を考えていかなければならないと思いました。

前述した中学生は、探究のプロセス（①課題設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現）が大切であるとも発表していました。2学期の学校生活では、授業での学びが他の授業や日常生活と繋がり合っていく経験ができることを期待します。私も10月にサグラダ・ファミリアの主任彫刻家である外尾悦郎氏の講演を聞く機会があります。そこで、私の自由研究が更に深まり、新たな課題も生まれるのではないかと楽しみにしています。